

行われた質疑から

予算審査特別委員会

平成28年第1回定例会では、28年度予算の審査を行いました。予算審査の方法は、議長を除く議員全員で構成する予算審査特別委員会（佐藤邦夫委員長、渡辺忠副委員長）を置き、3月10日から17日までの6日間で審査し、いずれも原案どおり可決すべきものと決定しました。主な質疑の内容を掲載します。

総務部門

質問 外部評価を取り入れて進めること、政策決定の過程の透明性ということについての考え方は。

答弁 外部評価の必要性については理解しているが、量が非常に多いこと、外部委員が入る場合、少しだけ入るといえるのは難しい内容になるため、お願いするという決断に至っていない。全てではなく、特に外部評価が適当と思われるものについては、今後見極めながら検討していく。

質問 総合計画審議会に評価をお願いしているのは、事務事業評価と施策評価の両方か、施策評価だけか。

答弁 事務事業評価については、事前に目を通していただいて意見をもらう形をとっている。施策評価については、全体を考えるとところからお願ひした

かったが、事務事業評価のように資料を提出した上で意見を聞く形にしてほしいという流れであった。資料の説明のうえ意見をいただくようにしたい。

質問 地域協議会も全体的にいろんな議論の場関わってくるので、全体を整理するべきと思うが。

答弁 地域協議会の代表者が総合計画審議会の委員になっているので、連携は取れているものと理解している。情報も提供している。

質問 総合支所の職員配置について、職員数の削減はどうなっているか、どのような業務ができなくなるのか。

答弁 人員は、当初半数削減の計画だったものを、その半数ということことで、4分の1の削減となる。

総合支所で出来なくなる業務は、パスポートの申請と年金の請求手続き関係。年金相談は総合支所でもできる。主に事業者が対象となるが仮ナンバー

の交付も本庁への集約となる。

質問 国体に係るさらなる水沢競馬場の整備改修について。

教育厚生部門

答弁 水沢競馬場は競馬組合の施設なので、市が直接改修することにはならないが、要望している。県と競馬組合と協議してスタンドやトイレの改修は県の負担金の対応で予定している。

質問 就学援助費は新入学児童対策として支給時期の見直しを検討するとしていたが、今年度予算に反映されているのか。

答弁 手続き等で保護者の負担も大きく、時期の変更は難しい状況。4月の早い時期に支給できるか等、平成29年度の変更に向けてさらに検討を進める。

質問 待機児童対策、休日保育体制整備のためにも、保育士の正職員を増やし待遇を改善して、潜在保育士の確保を進めるべき。

答弁 子育て支援の最重要課題ではあるが、財政的な裏付けが必要。待遇面も含め様々な課題を一つ一つ考えながら、良い方向に持って行きたい。

質問 認知症対策推進事業としての認知症サポーター養成を、市では職員研修に取り入れたいとしていたが、状況はどうか。

0名以上に実施し、ゲートキーパー研修にも取り組んだ。これを一般職の研修の場に広げて行き、効果的な対応ができればと思っている。

質問 乳幼児・妊産婦の医療費助成は、今年8月より現物給付方式に変更・実施されるが、それ以外についての実施はどうか。

答弁 県の統一した取り組みであり、市独自では難しい。国より国保歳入が削減される罰則もあるので、県と協議しながら間違いないよう進めて行きたい。

質問 地方創生の中で、国では介護施設整備に約423億円を計上している。今後、この予算を活用して行くべきで



佐倉河小学校での認知症サポーター養成講座